

徒

四年

【圖數】
筆順 10
ク
ン

犊 犊 犊 犊 犊 犊 犊 犊 犊 犊

成り立ち



「走る」という意味を表した「走」と、道の形を表した「犊」とを組み合わせて作った字です。

「道を行くのに、馬や車に乗らないで、走って行く」ことを表した字で、「馬や車に乗れない、身分のひくい者」、または「未成年の者」を表した字です。「徒士」は前者、「生徒」は後者の意味のことばです。

「足を使う」という意味にも使われます。【例】徒歩、徒競争。

「何かに従っている人たち」の意味にも使われます。

【例】信徒、徒党。

また、「まずしい」「何もない」「むなししい」などの意味にも使われます。【例】徒手、徒食。

使い方

- ▽徒歩で五分ほどで、ぼくの家に着きました。
- ▽運動会の徒競争で一位になりました。
- ▽わたしは考古学の学徒として、発掘活動にたずさわっています。

熟語例

- ▽徒歩（車などに乗らず、足で歩くこと。）
- ▽徒競走（かけっこ。かけくらべ）
- ▽信徒（ある宗教を信じて従っている人たち。「日蓮宗の信徒」などというふうに、つかいます。）
- ▽学徒（学問に従っている人。学生や学者などのことをいいます。）
- ▽徒党（同じことに従う仲間。「徒党を組む」といえば、何かよくないことをたくらんで、仲間が集まることをいいます。）
- ▽徒手（手に何も持っていないこと。）
- ▽徒食（何もしないで遊んで暮らすこと。「無為徒食の生活」などというふうに、つかいます。）

努

四年

【圖數】
筆順 7
フ
ン

奴 奴 奴 奴 奴 奴 奴

成り立ち



「手を使つてはたらく女」という意味の「奴（奴隷のこと）」と、「力いっぱいがんばる」という意味の力とを組み合わせて作った字です。

「奴隷のように力いっぱいがんばる」という意味の字です。「努める」と読みます。また、「努力する」とも言います。

「つとめる」と読む字には、ほかに「勤める」と「務める」とあります。「勤（年 863）」は、「会社に勤めています」というように使い、「務（年 824）」は、「会議の議長を務める」というように使われます。同じ「つとめる」と読む字でも、「努める」とはだいぶ意味がちがいますので注意しましょう。

使い方

- ▽わたしは算数が苦手なので、家へ帰ってから努めて練習問題を解くことにしています。問題を解こうと努力しているうちに、少しずつやり方がわかって来ます。これからも努力して、算数が好きになるよう努めるつもりです。
- ▽運転手は、安全運転に努めています。
- ▽授業中、ぼくは、姿勢をくずさないようにと努めています。
- ▽わたしは、努力して勉強したので、試験に合格しました。
- ▽お父さんは、いっしょけんめい努力して、家を建ててくれました。

熟語例

- ▽努力（力いっぱいがんばること。）